

大雨、落雷、突風に対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

令和8年8月26日5時50分、「福島県気象解説情報（大雨・落雷・突風）第4号（福島地方气象台）」が発表されました。

○福島県気象解説情報（大雨・落雷・突風）第4号（福島地方气象台）

福島県では、前線の南下や上空の寒気と暖かく湿った空気の影響により、26日昼過ぎから28日午前中にかけて、大雨による土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に十分注意してください。また、竜巻などの激しい突風や落雷、降ひょうに注意してください。

〔気象概況〕

前線が日本の東から東北地方にのびています。前線は27日にかけて東北南部に停滞する見込みです。また、27日は日本海に低気圧が発生し、28日にかけて北日本に進むでしょう。前線や低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、日中の昇温や上空の寒気の影響も加わるため、28日にかけて大気の状態が非常に不安定となる見込みです。

このため、福島県では、雷を伴って激しい雨が降り、大雨となる所がある見込みです。雨雲が予想以上に発達した場合には、警報級の大雨となる可能性があります。

〔雨の予想〕

26日から27日にかけて予想される1時間降水量は多い所で、

中通り 30ミリ

浜通り 30ミリ

会津 30ミリ

26日6時から27日6時までに予想される24時間降水量は多い所で、

中通り 60ミリ

浜通り 60ミリ

会津 80ミリ

その後、27日6時から28日6時までに予想される24時間降水量は多い所で、

中通り 80ミリ

浜通り 80ミリ

会津 100ミリ

〔防災事項〕

会津では、26日昼過ぎから夜遅くにかけてと27日朝から28日午前中にかけて、中通りと浜通りでは、26日昼過ぎから夜遅くにかけてと27日朝から夜遅くにかけて、大雨による土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に十分注意してください。

また、会津では26日昼前から28日午前中にかけて、中通りと浜通りでは26日昼前から27日夜遅くにかけて、竜巻などの激しい突風や落雷、降ひょうによる農作物や農業施設等への被害に注意してください。発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。

[補足事項]

今後発表する防災気象情報に留意してください。

土砂災害や浸水害、洪水害のキキクルに関しては「気象庁ホームページ」などを確認してください。

次の「福島県気象解説情報（大雨・落雷・突風）」は、26日16時30分頃に発表する予定です。

1 共 通

- (1) 突風や降ひょうに備えて、パイプハウス等の点検やビニールの補修を行いましょう。また、露地栽培では、事前に収穫可能な農作物の収穫に努めましょう。

2 水 稲

(1) 事前対策

ア 増水に備え用排水路を点検し、ゴミ等を取り除いておきましょう。

イ 畦畔が崩壊しないよう点検し、必要に応じて補強しましょう。

(2) 事後対策

ア 冠水した場合は、少しでも早く葉先を出すよう早急に排水します。特に、濁水がほ場内に停滞した場合は、早急に水の入替えを行いましょう。

イ 浸水・冠水したほ場では病虫害が発生しやすくなるので、ほ場をよく観察し必要に応じて薬剤による防除を行いましょう。

ウ ほ場内に流木等の異物が流入した場合は、早期に取り除きましょう。

3 大豆及び秋ソバ

(1) 事前対策

速やかにほ場から排水ができるよう明きょ、暗きょ等を点検し、ゴミ等の除去などを実施しておきましょう。水田転換畑で滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

(2) 事後対策

表面水や明きょの滞水は早急には場外に排水しましょう。

4 野菜・花き

(1) 事前対策

ア 共 通

(ア) ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害のおそれがある地帯では強制排水のポンプも準備しておきましょう。

(イ) ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。

(ウ) パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。

(エ) パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋交いを入れ、補強しましょう。

(オ) 施設では、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。

(カ) 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。

(キ) 収穫可能なものは、事前にできるだけ収穫しましょう。

(ク) は種や定植を予定しているものは、大雨や突風が落ち着いた後に実施しましょう。

イ 野 菜

露地きゅうりやさやいんげんは、支柱やネットにしっかり誘引しておきましょう。
なすやピーマン、アスパラガスは、支柱やフラワーネットを点検し、倒伏を防止しましょう。

ウ 花 き

露地栽培では、フラワーネットや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

(2) 事後対策

ア 共 通

(ア) 停滞水は、明きよなどで速やかな排水に努めましょう。

(イ) ネギやリンドウなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょう。

(ウ) 天候の回復後は、施設等の換気を図りましょう。

イ 野 菜

(ア) 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の動きを回復させましょう。

(イ) マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいので、マルチを一時的に取り除いて乾燥させましょう。

(ウ) 果菜類は、損傷を受けた果実は早急に摘果しましょう。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉(枝・つる)の発生を確認してから摘除しましょう。

(エ) 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

(オ) 収穫した野菜は傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、被害品は出荷しないようにしましょう。

ウ 花 き

(ア) キクやリンドウなど露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行い、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょう。

(イ) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

5 果 樹

(1) 事前対策

ア 現在、収穫期に入っている果樹では、強風による落果や傷害が懸念されるので、収穫可能な果実は事前に収穫しましょう。

イ 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束しましょう。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等をはずし風になびくようにしましょう。

ウ りんごのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しましょう。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認しましょう。

エ 果樹棚(なし、ぶどう等)等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行いましょう。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。

オ 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き

上がらないようにしっかりと固定しましょう。

(2) 事後対策

- ア 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょう。
- イ 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょう。
- ウ 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に適切に薬剤散布を実施しましょう。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施しましょう。
- エ 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行いましょう。
- オ 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定しましょう。
- カ 大枝が裂けた場合は、ボルトやかすがい等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させましょう。また、大枝が折損した場合は、折れた部分からやや基部の健全な部分まで切り戻しましょう。さらに、傷口から病害などが侵入しないように、傷口の保護に努めます
- キ 果樹棚のワイヤー等が破損した場合は、速やかに修復や補強を実施しましょう。

6 畜産・飼料作物

(1) 事前対策

- ア 強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊、及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行いましょう。
- イ 入り口等が開放されている飼料の保管場所では、飼料をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしてください。
- ウ 堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょう。
- エ あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行いましょう。
- オ 水はけの悪い草地や飼料畑には明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょう。

(2) 事後対策

- ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。
- イ 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょう。
- ウ 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。
- エ 収穫期を迎えた飼料用トウモロコシが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行いましょう。
調製にあたっては、土砂等が混入しないよう収穫作業を行うとともに、水分調整の実施や、乳酸菌製剤等の発酵促進剤を添加するなどして、サイレージの品質向上に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>